

平成 29 年度墨田区立吾嬬第二中学校経営報告書

平成 30 年 3 月 14 日

学 校 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、正しい判断のできる生徒 (自ら進んで学習に取り組み、よく考え、判断して行動することができる生徒を育てる。) ・思いやりのある生徒 (人と協力し、何事にも一生懸命になれ、人間関係が上手に築ける生徒を育てる。) ・心身ともに健康な生徒 (自らの健康管理ができ、自分自身を大切にしながら、体力向上に取り組む生徒を育てる。)
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心と健康な身体を育む学校 (心の教育・健康教育の充実) ・確かな学力の定着と向上をめざす学校 (基礎・基本の定着と徹底) ・保護者や地域住民の信頼に応える学校 (開かれた学校づくりの推進)
目指す子供像	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を身に付け、人権を尊重し相互に高めあう心豊かな生徒 ・毎日・毎時間の授業に集中し、各教科の基礎・基本を習得する生徒 ・心身ともに健康で、困難なことにも粘り強く最後までやりぬく生徒
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好きで、教えることを誇りとし、生徒に目を向けて教育活動を展開する教師 ・高い識見と豊富な知識を有し、生徒の人間性を高めるべく教育活動に取り組む教師 ・教育公務員としての自覚と責任の上に、自己の資質の向上のための研修に励む教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	C	・毎時間のねらいを明確にし、振り返りの時間をもち学習内容の確認を確実に行う。 ・復習用として振り返りシートを活用していく。	B	C
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	・校内特別支援教育推進委員会において、個々の生徒へのかかわり方や対応についての共通理解を図り、組織的な支援を行う。 ・学校支援員の活用を一層図る。	B	B
	学校は、子供の将来の自立に向けた教育活動・相談活動に取り組んでいるか。	C	・3年間を見通した系統的なキャリア教育の充実を図っていく。	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	C	・校内でのOJTによる授業参観等の機会を増やし、授業力を高めていく。	B	B
	家庭学習習慣の確立に向けた取組	C	・基礎基本の定着のための家庭学習の課題を出していく。 ・家庭学習の方法を教える指導を行っている。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・確かな学力の向上については、教員も努力していると思うので、具体的な課題解決の内容を明らかにして取り組んでほしい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	・学校全体で生活指導を行うよう、情報共有を密に行い、課題への早期対応を今後も進める。	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	C	・基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を、繰り返し粘り強く行っていく。 ・挨拶の大切さの指導を継続して行い、生徒の主體的な取組も促していく。	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	・安全教育の指導計画に従い、生徒の安全確保の取組を着実に実施するとともに、Jアラート等の対応訓練も実施する。	B	B

様式4

	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立てているか。	B	・生徒、保護者、関係者の意見や要望を、アンケートにより把握し教育活動の点検と改善の参考にしていく。	B	B
	人権尊重教育の推進	B	・人権尊重教育推進校として、引き続き年間指導計画にそった指導と取組を実施していく。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・校内だけでなく校外でも、あいさつやマナーがしっかりとしている生徒を学校と保護者・地域が協力して育てていきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針をもとに、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	・校長の経営方針を受け、副校長が要となり、組織的な学校運営を行い、PDCAサイクルを意識し教育活動を行っている。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	・学校の教育目標や校長の経営方針の具現化に向け、学年経営や学級経営で目標を明確にし、適切に評価し改善していく。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	・次年度から工事が終了するので、新しい教育環境の中で、生徒の安全・安心を第一に考え、よりよい教育活動を行う。	B	B
	校庭整備工事期間中の学習環境・教育活動環境の確保	B	・次年度から工事が終了するので、新しい教育環境を生かした取組を行う。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・校舎校庭が完成したので、その環境を生かした教育活動を行ってほしい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	・学校ホームページの更新や学校だより・学年だよりの発行を継続していき、学校の様子を保護者・地域の方々にタイムリーに伝えていく。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	・教職員も保護者や地域の方々とかかわる機会を増やす。 ・人権教育を通して、地域の理解や協力を得ていく。	C	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・周年行事の取り組みを含め、学校と地域は協力関係ができているので、自己評価の達成状況は高くてもよいのではと思う。			

様式4

2 平成29年度学校評価のまとめ

- ・保護者アンケート、地域アンケートともに、肯定的な回答が70%を超えるものが多く、本年度の教育活動についてよい評価を得ている。
- ・学習面での評価が相対的に低い。授業の改善、家庭学習の充実含め、改善すべき内容を明確にして取り組む必要がある。
- ・周年行事も無事終了したが、引き続きPTA、地域と協力した活動を実施していく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立吾嬬第二 中学校 校長 渋谷 俊昌

